

介護あんしん 相談員だより

第17号 平成27年7月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員は、ご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えたりした点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者さんや介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します (平成27年3月・4月・5月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：職員も一緒に食事をとり、家庭的な和やかなランチタイムでした。
施設：一緒に横で食べると、食欲もすすむと思います。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらの施設は
グループホームです。

職員も一緒に食事を摂られるのは、本当に和やかな光景だと思います。
こちらの施設はグループホームなので、より家庭的な雰囲気生活で生活されているのではないのでしょうか。やはり、1人で無言で食べる食事より、皆で会話をしながら食卓を囲んで食事をする方が、より美味しく感じられますね。(部屋にはオルゴールの音楽も流れています。)
認知症の方も、昔の事は良く覚えていられます。若いスタッフの方は、会話のきっかけに「昔はどんな遊びをしていたのですか？」「昔、学校で習った歌は何ですか？」など尋ねてみてはいかがでしょうか。きっと会話に花が咲くのではないのでしょうか。
また、コーヒー好きの方のために、コーヒーを沸かしいつでも準備して置いてあるそうです。素敵なコーヒータイムが毎日の楽しみになりますね。



～利用者さんの声より～

利用者：以前の施設では手伝いなどをして役に立っていました。ひとりで何でも出来ていました。今まで満足していたのに、ここで先のことを考えると悲しいです。
施設：今日入所されたばかりなので、ホールで過ごされていますが、これから出来る事をして頂こうと思っています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらの施設は
グループホームです。

利用者様の、「何とか人の役に立ち、生きる張り合いを持ちたい」という思いは、どのような状況でも、社会の一員でありたいという気持ちのあらわれだと思います。
社会の役に立ちたい、社会の中で認められる存在になりたいと思うのは、当然のことなのでしょう。
認知症の人も、そうでない人も、心の張りを持ちたいと願われているのでしょう。いずれの施設も身体的な介助は十分にされていると思います。心のサポートの重要性を感じる、利用者様のお言葉でした。介護あんしん相談員が施設に橋渡しをしたことで、利用者様の何とか人の役に立ちたいという気持ちが伝わったと思います。

利用者：週1回歯科、週2回リハビリに連れて行ってもらい、おかげで元気で過ごすことができ、ありがたいです。(ベッドの中で足を伸ばすストレッチをされているところで、お話を聞きました。)
施設：入院後にオムツ利用で施設に帰って来られたが、今では昼間のみオムツなしでトイレを利用されています。良い方向にむかわれています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらの施設は
グループホームです。

こちらの利用者の方は91歳のご高齢の方で、病院から退院し、施設に戻ってこられた時にはオムツ利用だったそうですが、徐々にオムツを外し、昼間は自分でトイレでの排泄をするまでになられたそうです。
このような報告を聞くと、本当に嬉しく思います。ご本人の頑張りはもちろん、ご家族・施設スタッフの方の支えがあってこそだと思います。
昼間だけでも、紙おむつから布のパンツに変わられたことで、とても気持ち良くなられたのではないのでしょうか。やはり布のパンツの方がサラッとして気持ち良いですね。
こちらの利用者は、感謝をしながら自分でできるいろんなことを、積極的に実行されているということです。施設のスタッフの方が、温かく見守られている様子がうかがえる報告でした。今後もよろしくお願いいたします。



わたしたち、介護あんしん相談員は一人一人の小さな思いを、お伝えします。